

統合失調症患者に対するベタインの治療効果を調べる臨床試験を行います

1. 発表者：

切原 賢治（東京大学医学部附属病院 精神神経科 助教）

笠井 清登（東京大学医学部附属病院 精神神経科 教授）

2. 発表のポイント：

- ◆ 統合失調症の患者さんを対象にベタインの有効性や安全性を調べる臨床試験を行います。
- ◆ これまでの研究で統合失調症の患者さんではベタインが低下していることが明らかになったため、ベタインを補うことによる治療効果を期待しています。
- ◆ 今回の臨床試験で良い結果が得られた場合、医療で用いられるために開発計画を進めていきます。

3. 発表概要：

東京大学医学部附属病院精神神経科は、統合失調症の患者さんを対象にベタインの有効性や安全性を調べる臨床試験を行っています。これまでは既に当院に通院中の方から参加者を募っていましたが、この度、当院に通院中の方に限らず広く参加者を募ることになりました。

統合失調症の治療法としては抗精神病薬や心理社会的治療がありますが、これらの治療法で症状を十分にコントロールできない方が少なくありません。当院精神神経科では以前に統合失調症の患者さんで血液中のベタイン濃度が低下していることを見出しており、ベタインを補うことで治療効果が得られることを期待して今回の臨床試験を計画しました。臨床試験で良い結果が得られた場合、新たな治療薬の開発につながることを期待されます。

なお、本研究は、日本医療開発研究機構「脳科学研究戦略推進プログラム」の「臨床と基礎研究の連携強化による精神・神経疾患の克服（融合脳）」の一貫として行われています。

4. 発表内容：

【臨床試験の背景】

統合失調症は、幻覚や妄想などの症状および生活の障害を呈する精神疾患です。抗精神病薬や心理社会的治療により症状が改善することが多いですが、これらの治療で症状を十分にコントロールできない方も少なくありません。

当院精神神経科では以前に統合失調症の患者さんで血液中のベタイン濃度が低下していることを見出しました。動物実験でベタインは神経保護作用があること等が報告されてお

り、ベタインを補うことで治療効果が得られることを期待して今回の臨床試験を計画しました。

ベタインは広く食用の魚介類や植物に存在し、人体ではホモシステインをメチオニンに変換する酵素の基質となります。統合失調症とは別の病気ですが、ホモシスチン尿症という病気の治療薬として保険適応のある医療用製剤があり、今回の臨床試験ではこの医療用製剤を用います。

【臨床試験の内容】

今回の臨床試験では統合失調症の方を参加者として募集します。これまでは既に当院に通院中の方から参加者を募っていましたが、9月11日より当院に通院中の方に限らず広く参加者を募ることになりました。

臨床試験の参加にあたって基準を設けており、基準を満たす方が対象になります。対象となる方に文書による説明を行い、文書による同意を得られた方に参加していただきます。参加者には当院精神神経科に通院していただきます。試験期間は14～16週で、その間に9回受診していただきます。ベタインを服用していただく他、血液検査や症状評価を行います。

臨床試験の内容、参加基準、参加方法、お問い合わせ方法など、詳細については下記ホームページで案内しています。

東京大学医学部附属病院 精神神経科 ベタイン臨床試験ホームページ
<http://betaine.umin.jp/>

【今後の展望】

今回の臨床試験で良い結果が得られた場合、医療で用いられるために開発計画を進めていきます。これまでの治療薬とは異なるメカニズムで働く薬であり、将来的に医療で用いられるようになった場合、これまでの治療法で十分に改善しなかった患者さんにとって有効な治療選択肢の一つになることが期待されます。

5. 取材に関するお問い合わせ：

<広報担当者連絡先>

東京大学医学部附属病院 パブリック・リレーションセンター

担当：渡部、小岩井

TEL：03-5800-9188（直通）

E-mail：pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp